

授業科目名	子育て支援	担当教員名	上村 康子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	保育の内容・方法の理解に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位 (15時間)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	1年 前期 (1-2期) / 年間開講数 2講座	特記事項	
授業の概要及び全体目標	近年、子育てに悩み、困難を抱える保護者や子育て家庭も少なくない状況にあることから、保育士をはじめとする保育者による子育て支援が求められている。そこで、保育者による子育て支援の特性と展開について学習し、学んだことを踏まえて、さまざまな実践事例について一人ひとりやグループ、全体で討議・検討し、まとめ、発表する。さらには、ロールプレイングを通して必要とされる支援内容、方法、技術について身につける。(グループワークやロールプレイング、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業であり、積極的な姿勢で授業に臨むことが求められる。)		
到達目標	<p>(1)保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の特性と意義について理解する。</p> <p>①保育の専門性を背景として、保育を基盤とした子育て支援の特性および意義について理解している。</p> <p>②子育て家庭が抱える課題への個別対応の必要性を理解している。</p> <p>(2)保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の展開について理解する。</p> <p>①子育て支援のプロセスを具体的に理解している。</p> <p>②職員間の連携・協働の大切さと相談・助言・指導体制の必要性を理解している。</p> <p>③社会資源の活用必要性を理解している。</p> <p>④自治体、関係機関との連携および協働の大切さを理解している。</p> <p>(3)保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援について、さまざまな場や対象に即した支援の内容と方法および技術を具体的に理解する。</p> <p>①保育所等に通う子ども(こども)の家庭および地域の子育て家庭に対する支援について理解している。</p> <p>②障がいのある子ども(こども)とその家庭に対する支援について理解している。</p> <p>③特別な配慮を必要とする子ども(こども)とその家庭に対する支援について理解している。</p> <p>④子ども(こども)虐待の予防と対応について理解している。</p> <p>⑤要保護児童の家庭および多様なニーズを抱える子育て家庭に対する支援について理解している。</p>		
テキスト	使用しない		
参考書・参考資料等	<p>①「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)</p> <p>②『保育の専門性を生かした 子育て支援 「子どもの最善の利益」をめざして』亀崎美沙子、わかば社、2018</p> <p>③『子育て支援』西村重稀・青井夕貴編、中央法規出版、2019</p> <p>④『新・子育て支援 子どもを喜びに変えるために』松井剛太編著、教育情報出版、2021</p> <p>資料：授業時に担当教員作成のプリントを配布。毎回、そのプリントに基づき授業を進める。</p>		
成績評価の方法	①平常点(受講態度等)：10% ②課題(課題への取り組みおよび成果物、プレゼンテーション力)：50% ③コメントシート(毎回提出、内容等)：20% ④理解度・到達度チェック(筆記形式)：20%		
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等	事前学習については授業時に指示する。事後学習については毎回、コメントシートを提出。オフィスアワー：質問事項を質問シートに記載し、学務室経由で提出。		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の特性 ―子どもの保育とともに行う保護者支援および保護者との相互理解と信頼関係の構築―」 保育者による子育て支援が保育者を中心に施設や設備等の保育環境を活用して行われるという、保育を基盤としている点に注視して、「子ども(こども)とは」「保護者とは」「保護者とは」と問ひかけ、考える。その上で、保護者との日常的で継続的な関わりの中で培われる相互理解と信頼関係づくりについて学習する。	(1)-①	
第2回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の特性 ―保護者や家庭が抱えているニーズへの気づきと多面的な理解および子ども・保護者がさまざまな人と関わる機会や場の提供―」 子育て家庭が抱える課題は個々に異なり、必要とされる支援も異なって個別対応が求められることについて、事例等を通して考え、理解する。その中で、子どもや保護者が様々な人と関わり、交流できる機会や場の必要性と意義について理解を深める。	(1)-②	
第3回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の展開 ―子ども・保護者の状況の把握および支援計画と環境の構成、支援の実践、記録、評価、カンファレンス(ケース会議)―」 子育て支援を展開していくプロセスでのインタビューとアセスメント、支援計画作成、環境構成の大切さと留意点、さらに支援の実践と記録、評価、カンファレンスの意義と留意点等について学習し、理解する。	(2)-①	
第4回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援の展開 ―職員間の連携と協働および社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働―」 保育者が子育て支援を行っていく上で全ての職員の協力と連携が不可欠であるとともに、相談・助言・指導を得られる体制(スーパービジョンやコンサルテーション)の必要性と意義について考え、理解する。さらに、子育て支援の実践においては社会資源の活用と自治体や関係機関、さまざまな専門職との協力・連携も必要であり、そのあり方について事例等を用いて考え、理解を深める。 ○理解度・到達度チェック(筆記形式)	(2)-②、(2)-③、(2)-④	
第5回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援とその実際 ―保育所等における支援：保育所等に通っている子ども(こども)の家庭および地域の子育て家庭に対する支援―」 保育所に通っている子ども(こども)の家庭や地域の子育て家庭に対する支援について、事例等を通して考える。	(3)-①	
第6回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援とその実際 ―障がいのある子ども(こども)とその家庭に対する支援―」 障がいについての学習を踏まえた上で、障がいのある子どもとその保護者の理解と受容、支援について事例等を通して考え、理解を深める。	(3)-②	
第7回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援とその実際 ―特別な配慮を必要とする子ども(こども)とその家庭に対する支援および子ども(こども)虐待の予防と対応―」 特別な配慮を必要とする子ども(こども)とその家庭の中で、子ども虐待につながる可能性が大と考えられるドメスティック・バイオレンスの事例を取り上げ、保育者が支援を行う上での配慮事項や支援のあり方について考える。さらに、子ども虐待について「児童福祉法」や「児童虐待の防止等に関する法律」を中心に学習した上で、子ども虐待に関する情報や事例等を用いて「子ども虐待とは」と問ひかけ、考えるとともに、子ども虐待への対応について理解を深め、活用できる社会資源を把握する。 ○理解度・到達度チェック(筆記形式)	(3)-③、(3)-④	
第8回	「保育士をはじめとする保育者の行う子育て支援とその実際 ―要保護児童等の家庭に対する支援および多様なニーズを抱える子育て家庭の理解―」 社会的養護を必要とする子どもとその家庭や多文化の中で育つ子どもと保護者に対する支援の事例等を用いて検討し、保育者が支援を行う上での配慮事項や支援のあり方について考え、理解を深める。	(3)-⑤	